

見えないカリキュラム —制服文化—



教育随想

愛知県立岡崎東高等学校長

岩瀬 正光 氏

学校には国語、数学、英語などの授業や学校行事といった、いわば「見えるカリキュラム」に対して、一方で「見えないカリキュラム」があります。それは各学校の雰囲気、文化、校風といったものです。

生徒が人間的に成長していく上では、授業などの目に見えるカリキュラムに対して、「学校文化」のような目に見えないカリキュラムの方が、時には一層重要かも知れません。

茶髪文化、ミニスカ文化、化粧文化の学校より、清楚な香り高い「制服文化」の学校の方が、生徒の人的成長の可能性をはるかに高めます。

部活動の試合で自分の能力を最大限に引き出す、最高の精神状態の時の服装はなんでしょう。それは、きちんと着こなしたユニフォーム、即ち、制服です。そして、強い学



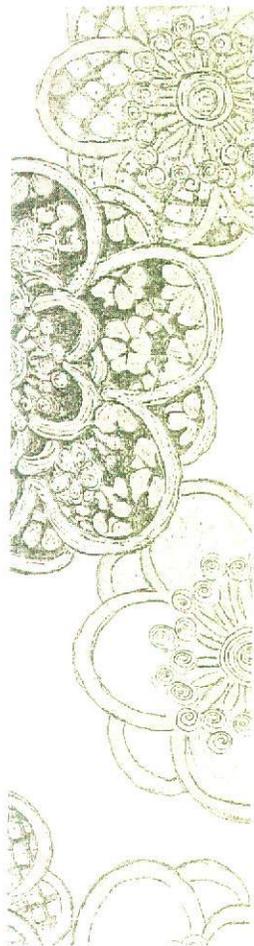
平成21年11月1日

11月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想 1
愛知県立岡崎東高等学校長
岩瀬 正光氏
- この人に聞く 2
てんとう虫文庫主宰
森 千香氏
- 羅針盤 2
特別支援教育指導員
田島 広嗣
- ふれあい 3
福岡中 村山 吉弘
- 特集 4
学校教育における地産地消
～地域とのかかわりを通して～
- お知らせ 6
- フォト・ヒストリー 8
明治の学校日誌（明治43年）
- この本を 8



校・チームほど、そのユニフォーム、制服からは何ともいえないオーラが漂っています。一種の「制服パワー」が漂っています。制服とは文化であり、力でもあるのです。

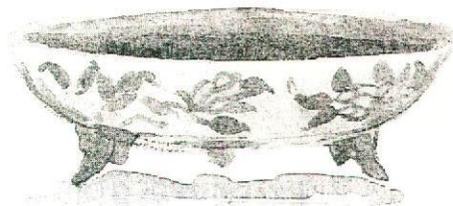
また、結婚式や葬式などの冠婚葬祭の際、その場にふさわしいフォーマルな服装として、大人は礼服を着ます。では、高校生である生徒は何を着るでしょうか。制服です。学校は家庭のようなプライベートな場所ではなく、フォーマルな場所です。

高校生にとって制服とは礼服なのです。

本校が大事にしたい価値観、守っていきたいものは、清楚な香り高い制服文化の学校です。これが「岡東文化」です。岡東文化とは、制服文化であり、真面目が一番の文化であり、志の高い文化です。生徒を最高に成長させる、オーラが漂うような制服文化の香り高い岡東文化を今後とも守っていこうと思っています。

(いわせ まさみつ)

ふるさとシリーズ
この人に聞く



本のもつ
見えない力を信じて

てんとう虫文庫主宰
森 千香 氏

「子供たちもてんとう虫も、お日さまと仲良し。外で遊んで、本を読んでも大きくなあれ」

岡崎市初の文庫サークル『てんとう虫文庫』の名前には、そんな願いがこめられている。

親子が集い、本や紙芝居の読み聞かせをしたり、科学遊びや工作と一緒に楽しんだりするサークルだ。

幼少から本好きの森さんは、子育ての過程で、子供の本に魅せられた。

一九七八年、矢作西小学校の山本忠男校長先生の推薦で、読み聞かせの講座を持った。講座終了後も継続を



望む声に押され、文庫を開いた。

一九八〇年代、同じような団体が次々と生まれたが、多くは閉鎖した。スイミング、ピアノなどの稽古事や学習塾が盛んになり、読み聞かせに来る子供が減ってしまったのだ。

「読み聞かせというのは、作者が作り出した世界をあなたの声で子供の心に届けるものだと思うの。それは一つのしずくになって子供の心に伝わり、地下水になってたまっていく。それがいつ役に立つのと聞かれるわ。成長して責任をもって言動をとらなくてはいけなくなつた時、きつと力になってくれると答えるの。」

発足から三十年。両親や夫との死別で直面してきたが、月二回の活動を休止したことはない。家族や周囲の協力があつたことはもちろんだが、続けられたのは、森さん自身が本の見えない力を信じていらつしたからだと感じた。

森さんには、文庫とは別のボランティア活動がある。視覚障がい者への音声訳や特別支援学校の子供たち

への読み聞かせを定期的に続けていることだ。

「障がい児教育は、長い間、文字文化から置き去りにされてきた」と言う。本の世界で遊ぶことより、名前が読めること、数を数えられることなどが優先されてきた。しかし、読み聞かせがもたらした小さな変化が忘れられないそうだ。

「どんなに重い障がいの子ども、時間をかけて働きかけていくと、表情がやわらいで目が輝き出す。それを目のあたりにしているから、続けていけるの。」

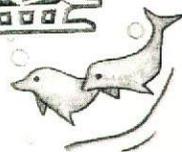
長く続けてきたから、わかることがある。幼少から、優しい声、響きのよい言葉、良質の話を耳にしていた子供たちは感覚が違ふと感ずるそうだ。

「本つてね、主人公がお話の中でいろいろなことを体験していくのだけれど、結局、生きていくって素晴らしいってことが書いてあるの。感動した本に出会つた子供はよい顔をしている。それは、子供がぐんと伸びる時ですよ。子供の身近にいる大人が、自分の声でたくさんのお話を届けてほしい。」

親や教師は、いつも子供がぐんと伸びる時に立ち合っている。森さんのメッセージが聞こえた気がした。

氏名 もり ちか
生年月日 昭和十三年三月三日
住所 岡崎市西本郷町

羅針盤



通常学級での特別支援教育

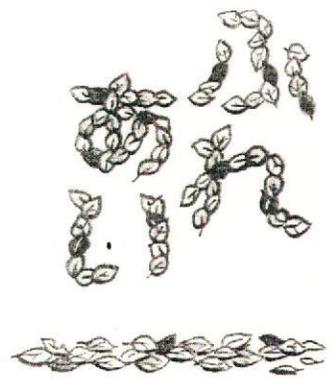
特別支援教育指導員 田島 広嗣

近年、特別支援教育は、通常学級にも必要な教育であることが認識され、とりわけ、発達障がいのある子供への対応が課題となっている。

そこで、次に紹介する事例から、通常学級での支援について考えてみたい。

昨年までのA男は、授業中にはしばしばパニックを起こし、保健室で休息したり、お迎えの保護者と共にうなだれて帰宅したりすることがあった。ところが、今年になって、このようなことがなくなった。これは、どういうことであるのか。A男の授業を参観する機会があり、その疑問が解けた。

A男の学級の級訓は、「アイ・コンタクト」。担任は、「(向いて)話す・聴く」ことが、学習や学級作りの基本であると押さえていた。参観した



二年かかった二重跳び

福岡中学校 村山 吉弘

「先生、部活やめさせてください。」
A男がそう切り出したのは、総体が終わり、引退を間近に控えた時期であった。理由を聞いてみると、中間テストの結果が思うようにならず、自分の進路が心配になったのだという。私は、この時期に退部希望の申し出があったことよりも、それがA男だったということがショックであった。

A男は、運動能力が高いわけではなく、それまで公式戦に選手として出場したことは一度もなかった。しかし、彼はわが剣道部になくてはならない存在であった。練習では誰よりも大きな声を張り上げ、試合では誰よりも選手をサポートしていた。「勝つことや試合に出ることだけが目標じゃないぞ!」

A男には常にそのように言い聞か

せてきたし、彼自身もその言葉の意味をよく理解して、他の部員たちの良き手本となっていた。

忘れられないのは、ある日の朝練習でのできごと。入部したての一年生は、練習メニューの二重跳びがなかなかできない。もちろん入部当時のA男もできなかった。その後、夏ごろにはほとんどの者が跳べるようになるのだが、A男は半年、一年経っても跳べるようにならなかった。彼を励まし、声をかけ続けてきたが、跳べないまま二年生の冬を迎えたころには、この子はもう跳べないままだろうなと思い始めていた。それでも彼は跳ぶことをやめなかった。すると、ある日突然、跳んだのである。無理矢理に一回だけ跳んだというのではなく、連続して五、六回跳んだ。私は感動のあまり、その場で叫びたい衝動にかられたが、何も言わなかった。彼が跳べたことに気付いた他の生徒たちも、感無量といった様子でA男のこゝを見つめていた。その空気を大切にしかつたからである。

運動部の顧問としてなかなか勝ちに恵まれなかった私は、経験者も少なく運動能力も足りないのだから、負けても仕方がないと、いつしか考え始めるようになっていた。しかし、それは間違っていた。生徒たちには無限の可能性がある。あきらめては

いけないのだ。それを教えてくれたのがA男であった。

部活をやめたいと言ってきた彼を、あれこれともしもらしいことを言って説得することはしなかった。ただ、部活動でのA男との思い出と朝練の二重跳びの話をした。自然と涙が二人の頬を伝った。あとはA男を信じようと思った。

二日後、武道場で何事もなかったかのように練習するA男の姿があった。同じく何事もなかったかのようにふるまう私に、A男が寄ってきて、「卒業する時の部活動お別れ会で、剣道部以外のところに行くなんて考えられません。」と言って笑った。引退から三か月。希望の進路に向けてひたむきに努力するA男の姿がまぶしい。



国語の授業では、音読時に全員で「指読み」(教科書の活字を指でなぞりながら読む)を実施したり、発言者を明らかにするために、「○○君の意見と同じで:」 「○○さんの意見とちよつと違って:」 という句型やネームプレートを活用したりしていた。また、板書は、本時の中心課題を明確にし、内容別に色分けされていた。担任は、発言を「なるほど」「すごい」と受け止め、子供たちも、うなずき合ったり、異なる意見を受け入れたりしていた。授業の振り返りプリントは、小さな声で、「どうぞ」「ありがとう」と言い伝えながら優しく配布された。

A男は、音読や発言も行い、授業に参加することができていた。

この授業には、全ての子供が心地よく学ぶための指導技術が押さえられていた。具体的には、

- 一、分かりやすく情報を伝える教示
- 二、安心感と心地よさのある環境
- 三、ルールに添った行動形成

の手だてが実行されていたのである。

不登校の三分の二、ニートの四分の一程度が、発達障がい児者であると指摘する専門家もいる。確かな指導技術の習得こそ、通常学級の特別支援教育で求められていると言える。



学校教育における地産地消

～地域とのかかわりを通して～

▲ シイタケの菌打ちをする1年生（形埜小）

食べ物を題材にした新聞記事や雑誌で、「地産地消」という言葉が聞かれるようになって久しい。この「地産地消」という言葉は、「地域生産地域消費」の略語で、地域で生産された農産物や水産物を、その地域で消費するという意味である。

愛知県では、六月を「食育月間」とし、毎月十九日を「食育の日」と定めている。そして、食を通じて豊かな心をはぐくむことを目指し、その施策の一つとして地場産物を三十五%以上使用することを目標としている。岡崎市の学校給食でも、ナス、ネギに代表される野菜、米など、地元産にこだわった献立作りが進められている。

市内の学校では、総合的な学習の時間や理科、技術・家庭科、特別活動の時間などで、自分たちで作物を栽培し、収穫、調理する取組が行われている。ここで大切なのは地域の協力である。名人と呼ばれる地域の方から学んだり、地域の土地を提供していただいたりしている学校もある。収穫後には、お世話になった地域の方を招いて、会食をしている学校も多い。まさに、地域と一体になって「地産地消の学習」に取り組んでいる。

また、大門小の「しめ縄づくり」、河合中の「炭づくり」や額田中の「間伐体験」などは、地域に根ざした活動であり、これからも継承していったほしい。

食の安全が、何かと世間を騒がす昨今である。学校、家庭、地域社会が連携して、次代を担う子供の望ましい食習慣を形成していくことが大切である。地産地消を意識することで、そのよさを知り、地域や食に対する関心を高めてほしいと願っている。

地元の特産品にこだわって



▲ 白スイカに思わず笑顔（山中小）



▲ できたブドウにっこり（恵田小）

山中の名産だった白スイカを作りました。この白スイカを広めようと思ひ、形をまねた白スイカ大福を作って、卒業式に配りました。自分たちが考えた大福に、卒業生が感動してくれて、とてもうれしかったです。

（山中小 五年）

地域の方から学ぶ喜び



▲ 地域の方の水田を利用した田植え (夏山小)



▲ ナス名人から植え付けの手ほどき (矢作西小)

手塩にかけた作物を収穫する喜び



▲ ジネンジョの収穫。お世話になった人との会食へ (常磐南小)



▲ お茶の葉を収穫。学区の方とのお茶会へ (大雨河小)

調理する喜び



▲ 校庭で収穫したウメをつけて梅ジュースにする実習 (竜谷小)



▲ 地元と旬にこだわった調理実習 (美川中)

給食での地産地消への取組

食 材	生 産 地
米	岡崎市全域
ナス	岡崎市全域
モヤシ	矢作地区
巨峰	駒立地区
ネギ	六ツ美地区
ニンジン	六ツ美地区
シイタケ	額田地区

※ 岡崎市全小中学生約33,000人すべての食材をまかなうことは、量が非常に多いため難しい。食の安全性の面からもできるだけ多くのものを、地元の食材でまかなうように努力している。

行政の地産地消への取組

- ・「食育メッセ子ども料理コンテスト」地元産の食材や、旬の野菜を使った小中学生のオリジナルメニューを給食に採用
- ・おかざき食育だより
旬の野菜を使ったメニューと調理方法の紹介、食育ポスターの募集、食育カレンダーの作成 (保健所生活衛生課)

岡崎市では、地域のものをたくさん取り入れようと努力しています。ただ、量を確保するのは大変なことです。六月の食育月間では、「食育メッセ」のコンテストで、優秀賞に選ばれた「天下のみそスープ」と「シャキシャキハンバーグ」を給食の献立に加えました。地域の食材は安全性が高く、生産者の顔が見えるような気がします。これからも地産地消にこだわった献立作りを、さらに進めていきたいと思っています。(栄養主査さんの話)

学校名	特色ある取組の内容
美合小	学区の方の指導による有機農業の米づくり。
竜美丘小	校庭のミカンの木を植樹した人を招いて、当時の話を聞く集会。その後、全校でミカンを収穫。
北野小	学区の方と農作業を共にし、もち米を収穫。もちつきをして、全校で会食。
六ツ美西部小	菜の花を栽培し、卒業式の会場を装飾。
千万町小	コンニャク栽培を通して、地域の方と収穫感謝祭。
甲山中	地産地消の利点を考える学習(技術・家庭科)。
東海中	食育単元を構成。「東中なべ」の調理実習。
新香山中	郷土料理の調査。八丁味噌を使った調理。
竜南中	ウメとシソを生産しての梅干作り(特別支援教室)。
額田中	間伐体験(1年生)。間伐材を使った製作。

※ 多くの学校で、地域とかがわってさまざまなものが作られている。そして、学校独自の方法で消費することで、子供の関心を高めている。



▲ 地域の方とのしめ縄づくり (大門小)



▲ 学校の窯で炭焼き (河合中)

お知らせ



● 教育最新情報

○ 岡崎市教育研究論文募集

平成二十一年度の教育研究論文を、以下のとおり募集する。論文執筆を通して日ごろの実践を振り返り、積極的に応募されることを期待する。

〈趣 旨〉

市立幼稚園、小中学校教職員の日ごろの教育実践及び教育研究の成果を広く募り、教職員の研修と資質向上及び学校教育の健全な発展を図るとともに、その努力を顕彰する。

〈募集部門〉

個人研究の部（第一部門）
共同研究の部（第二部門）

〈応募規定〉

一 二〇〇〇字以内。A4判
四〇〇字詰め原稿用紙三〇枚以内（図表等も含む。）にまとめる。

〈募集期限〉

平成二十一年十一月二十四日（火）午後五時まで

〈作成上の留意点〉

- ① 他で発表されていないもの。ただし、継続実践研究は可。
- ② 資料や写真は精選し、本文と無関係なものは掲載しない。折り込みの資料等は不可。また、縮小は判読可能な範囲にする。
- ③ 個人に関する情報を掲載する場合は、次のような点に留意し、個人が特定されないようにする。

- ・ 児童生徒名はアルファベット順で表記する。イニシャルは使用しない。
- ・ ワークシート等を資料として掲載する場合、氏名が掲載されないよう気をつける。

- ・ 個人を特定できる写真を掲載する場合は、本人や保護者の承諾を得る。

なお、応募の詳細については、募集要項を参照されたい。また、昨年度の論文総評を一読することも有効である。

○ 不登校対策

本市全体の一学期の不登校児童生徒数は、昨年度と比較して減少している。例年増加傾向にあるこれからの時期も、「一人を救う。新たな一人をつくらない」を合言葉に、きめ細かい対策を心がけたい。

〈効果があった対策例〉

- ・ 心配される子供一人一人に対して複数の担当者を決め、チームで支援した。
- ・ 一律の指導ではなく、それぞれの子供に合わせて、「○君は宿題をここまでやればいいよ」といった対応をした。

- ・ 登校支援員、ハートピア岡崎、スクールカウンセラーの協力を得て支援した。
- ・ 家庭児童相談室と連携し、親が学校の連絡に対応するようにした。

- ・ 集会の中でアサーショントレーニングを実施した。
- （不登校対策主任情報交換会より）

● 少年自然の家だより

○ 少年自然の家と新東名高速道路工事

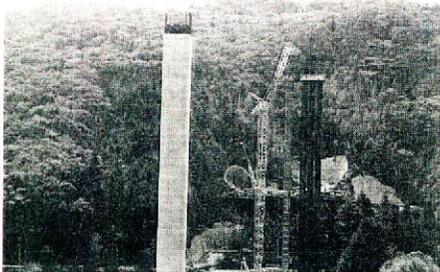
山の学習等で少年自然の家に來所する際、驚くほど高いコンクリートの二つの塔が遠望できるようになった。これは新東名高速道路の乙川橋（長さ五二〇メートル、上下線二本）の橋脚で、平成二十三年十一月の完成を目指している。橋脚は上り線で四本、下り線で四本の計八本が建設される予定である。

橋は清流乙川、県道、少年自然の家進入道をまたぎ、橋脚の高さは地上七〇メートル。そして、高速道路路面までは八〇メートルになる。十月末の時点で、上り線、下り線それぞれ一本ずつのコンクリート橋脚の工事が完了している。

乙川橋の北には岩戸トンネル（上下線二本）、南には才栗トンネル（上下線二本）が掘られる。才栗トンネルは、北側から少年自然の家進入道路の山側斜面、少年自然の家の第二キャンプ場に近い西境界道、展望台西を南側に貫いていく。このトンネルは、今年中に南側から工事を本格化する計画である。そのため西境界道の一部が通行止めになる。工事箇所周辺には安全柵やロープを設け、安全に配慮して活動ができるようにしている。

また、トンネル工事中は、離れた場所の地中工事とはいえ、騒音や振動がキャンプ場まで伝わり、利用する学校の子供たちに迷惑をかけることも予想されるが、ご理解ご協力をお願いしたい。

完成後は、騒音や光などの環境対策がなされた高速道路が誕生し、少年自然の家の敷地をトンネルが貫くことになる。



▲ 少年自然の家敷地内を貫く高速道路工事

●表彰

◆全国自作視聴覚教材コンクール

優秀賞

・「菜の花が環境を守る」

・「酒蔵を守る〜女性蔵人の挑戦」

入選

・「菌のはたらき」

・「地域のために何ができるか〜 鋳物メーカーの挑戦〜」

・「Joyful English Water Miso Girls」徳川家康杯にかける青春

※いずれも自作教材制作委員会・視聴覚ライブラリー共同制作

◆第六十二回中部合唱コンクール

同声合唱の部

金賞 南中学校

◆愛知県野生生物保護実績発表会

知事賞 生平小学校

知事賞 宮崎小学校

教育委員会賞 河合中学校

教育委員会賞 東海中学校

◆学校関係緑化コンクール

知事賞(特選) 常磐東小学校

※全国審査へ

社団法人愛知県緑化推進委員会会長賞(特選) 形埜小学校

同 (入選) 夏山小学校

◆平成二十一年度愛知県教育文化奨励賞

千万町小学校

第42回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝		第2位		第3位	
		氏名	学校	氏名	学校	氏名	学校
陸上競技	男子	六美北	南	葵			
	女子	竜海	美川	六ッ美			
バスケットボール	男子	北	美川	城北	甲山		
	女子	葵	甲山	南海	東海		
バレーボール	男子	矢作	東海	竜海	城北		
	女子	矢作北	六美北	福岡	竜南		
ソフトテニス	男子	矢作北	竜海	新香山	城北		
	女子	矢作北	美川	矢作	竜海		
卓球	男子	六美北	額田	矢作北	矢作		
	女子	北	美川	額田	矢作		
新体操	男子	南	東海				
	女子						

種目	性	優勝		第2位		第3位	
		氏名	学校	氏名	学校	氏名	学校
剣道	男子	矢作北	北	矢作	竜海		
	女子	矢作	六美北	竜海	北		
ハンドボール	男子	美川	竜南	葵			
	女子	六美北	美川	竜南			
軟式野球	男子	六美北	美川	葵	矢作北		
	女子	矢作	葵	甲山	城北		
ソフトボール	男子	矢作北	矢作	竜海	六美北		
	女子	矢作北	六美北	甲山	竜海		
サッカー	男子	甲山	南	甲山	海		
	女子	矢作北	矢作	竜海	城北		
水泳	男子	矢作北	矢作	竜海			
	女子	矢作北	竜海	城北			

個人競技(1位のみ) *は新記録

水泳

種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
50m自由形	木村 圭佑	葵	27'12	小山内優奈	附属	32'88
100m自由形	蜂須賀大貴	六ッ美	1'01'83	龍見 美咲	甲山	1'04'48
200m自由形	本多奏一朗	東海	2'09'33	小串 奈緒	葵	2'42'54
50m平泳ぎ	川合 確	南	35'35	栗野 光	城北	41'44
100m平泳ぎ	高見 友彌	竜海	1'12'11	鈴木 里緒	城北	1'27'43
50mバタフライ	神谷 健	矢作	30'40	平岩 桃夏	竜南	*29'74
100mバタフライ	岩本 力也	矢作北	1'02'59	遠山 喜咲	竜海	1'12'98
50m背泳ぎ	八木 克弘	竜海	32'01	荒井 裕巳	城北	33'14
100m背泳ぎ	河合 駿介	竜南	1'10'25	中嶋 里実	矢作北	1'14'92
200m個人メドレー	野澤 魁利	矢作北	2'36'24	中尾 優希	葵	2'49'59
400mR	岩本・高坂野澤・伊東	矢作北	4'15'13	谷・中嶋菅田・土赤	矢作北	4'42'35
400mメドレーR	八木・高見後藤・鈴木	竜海	4'52'00	荒井・鈴木富岡	城北	5'13'87

柔道

男子	氏名	学校	女子	氏名	学校
軽量級	中山倫太郎	矢作北	軽量級	澤田千菜美	矢作北
軽中級	浅野 智也	竜海	軽中級	川澄 紘子	竜海
中量級	磯村 太一	岩津	中量級	山田 葵	矢作
重量級	山田 友其	矢作			

体操(女子)

種目	氏名	学校	平均台	氏名	学校
個人総合	角屋 琴絵	南	角屋 琴絵	南	
床運動	角屋 琴絵	南	跳び箱	角屋 琴絵	南

陸上

性	種目	氏名		学校	記録
		氏名	学校		
男子	100m	宮崎 恭庸	六美北	*11'2	
	200m	井上 脩吾	矢作北	23'9	
	400m	田島 涼	竜海	57'5	
	800m	中村 賢晴	美川	2'12'3	
	1年1500m	稲葉 康太	葵	4'36'7	
	3000m	西山 令	葵	9'25'0	
	110mH	岩瀬 累	南	16'2	
	4×100mR	渡野・宮崎・中嶋・酒井	六美北	47'2	
	走幅跳	川口歩実弥	南	5m96	
	走高跳	加藤 友祐	六ッ美	1m60	
	砲丸投	鶴見 樹音	美川	*10m10	
	棒高跳	鈴木 康太	南	*3m80	
	女子	100m	杉山 美貴	矢作北	12'8
		200m	伊藤 瑛里	六ッ美	27'1
1年800m		中根 千明	矢作	2'28'4	
800m		田中 美希	竜南	2'21'3	
1500m		溝口 美月	矢作	4'55'9	
100mH		小木曾美樹	美川	16'7	
4×100mR		小木曾・浅田・本多・石原	美川	53'0	
走幅跳		宮本久瑠実	矢作	4m97	
走高跳		原 朋子	美川	1m45	
砲丸投		手島 彩乃	北	9m79	

弓道

男子	学校	女子	学校
石谷 典也	額田	鈴木 桃花	額田

第48回岡崎市小学校陸上競技大会

(総合成績)

男子 優勝 根石小学校 2位 上地小学校 3位 城南小学校
女子 優勝 男川小学校 2位 六名小学校 3位 細川小学校

(個人)

*は新記録

種目	男子			女子			種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録		氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
5年100m	清野 雄樹	井田	14'1	野中あおい	細川	14'6	400mR	藤田・大城・加藤・宮谷	根石	54'4	加藤・牛越・石川・佐藤	六名	58'3
6年100m	齋木 佑輔	井田	12'8	武山さくら	岩津	13'6	走幅跳	永井 佑典	生平	4m81	内田 里奈	根石	4m40
80mH	大竹 哲司	上地	*12'7	梶川 珠里	六ッ美	*13'6	走高跳	築出 誉	北野	1m43	天野ひかり	矢作東	1m38
1000m	間瀬 楓生	上地	3'08'9	伊藤有耶美	井田	3'19'2	ソフトボール投げ	桐村 渉	大門	70m39	諫山 瑞希	広幡	54m65

・カ
ツ
ト
矢作中
川口典子

明治の学校日誌 (明治43年)

写真提供：矢作南小学校



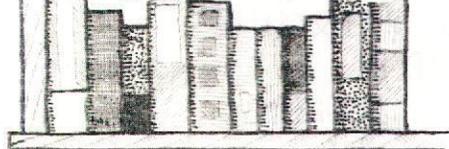
この写真は、明治四十三年度の矢作第三尋常小学校の日誌(学校日誌)である。

矢作南小学校の前身、矢作第三尋常小学校は、矢作第五尋常小学校、第六尋常小学校、第一尋常小学校分校が統廃合され、明治四十一年四月一日に開校した。昨年、創立百周年を祝った本校の歴史は、ここから始まる。

この日誌は、開校三年目のものである。ページに二日分記入するようになっていて、四月一日の記事の欄には、「小野田訓導ハ第一尋常高等小学校へ入学生ヲ率ヒテ出席」「午前十時ヨリ入学式ヲ行フ」などの記述がある。「尋常科」「高等科」の児童数の記入欄、華氏による気温の記入やカタカナ表記に歴史が感じられる。

この時代から変わることなく、学校日誌には、各学校の日々の出来事が記録され、確かな歩みを残す貴重な資料となっている。

この本を



- * 教師力を磨く 仲島 正教 ¥1,600
大修館書店
- * 気をつけ、礼 重松 清 ¥1,400
新潮社
- * 1Q84 Book1, Book2 村上 春樹 各¥1,800
新潮社
- * ちょっといい話 佐藤 光浩 ¥580
アルファポリス文庫

* 誰でもいいから殺したかった! 碓井 真史
ベスト新書 ¥743

「人を物のように扱う恐ろしい言葉である。無差別殺傷事件は、とてつもない凶悪な犯罪であると同時に、彼らは誰でもいいから愛してほしかったのではないのでしょうか。人を殺し、自分の人生も終わりにしようとした彼らは、本当は誰かに必要とされたかったのではないのでしょうか」と、筆者は述べる。一昨年6月に起きた秋葉原の無差別殺人事件をはじめとする青少年が起こした殺人事件を中心に、犯人の青年期の心理状態を分析し、親子関係、思春期・青年期の心理、そして現代社会が抱える様々な問題について考えさせられる一冊である。

矢作北中 柵木 智幸

惜しみない愛情を米作りに注いで五十余年。名人の一日は、朝早くの水田の見回りから始まる。稲穂を見ている姿は、まるで子供の調子を診ているかのよう。名人と呼ばれるからには、それなりのプロの技がある。そのような姿を感じるからこそ「地産地消」を推進する意味がある。

七五三詣の時期。子供の成長と健康に感謝し、今後の無事を願う親の気持ち。今も昔も変わらない。千歳飴の袋を下げた子供を中心に、家族で記念写真を撮る姿は微笑ましく、モミジやイチヨウなどの木々が色づいた境内は、秋の深まりを一層感じさせる。

シオ スア

熱い思いを胸に、クラスが心を一つにして取り組む合唱コンクール。「あのパートがもっと一生懸命やってくれたら。」いろいろなたラブルがありながらも、子供の心が一つの方向を向いていく。子供たちのもつパワーに感心させられる。今年は、どんな歌声が聞かれるのだろうか。

好きな本を選び、読み聞かせをする四歳児の顔が得意気だ。てんとう虫文庫での、和やかな一場面。「小さい頃から、読んでもらっている子は、聞き手に心地よい読み方が自然に身につくのかしらね」森さんの子供たちへのまなざしは、どこまでも温かい。